

# 日常奪った原子爆弾

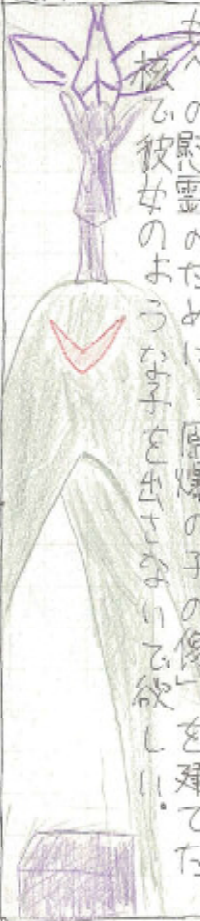
# 戦争体験記

城北中 山田 雄大



1945年8月、衰えた日本に米軍が史上初で唯一の原爆の実戦使用をし、6日に広島、9日に長崎に、激しい閃光と爆風により、全てが消失し飛んだ。  
 広島は地獄と名、た、人の皮膚は溶け、家は焼け、瓦礫が散乱していた。  
 地獄を生きた抜いた太田金次さんは語る。「川には向千という死体が浮かび、生きていける人も、水をくれ、水をくれ」と言い、息絶えてい、た、し、は、く、し、故射能を言、黒い雨も降りしきり、とてもつらかった、即死を免れた人も、後遺症が、差別で苦しみました。  
 広島原産業奨励館とよはれた建物は、爆風に耐え、現在は負の世界遺産、原爆の、4といて、その恐ろしさも物語、ている。  
 ああ、核のなくなる日はいつ訪れるだろうか。

## 鶴の折りの子原爆



佐々木禎子さんは、2歳の時に原爆にあうが、元気に生活していた。小6の時、被爆による白血病と診断された。  
 入院生活をほじめると、名古屋の高校生から折鶴が届いたのをき、おけに、「千羽折れれば元気になる」と信じ、他の患者と一緒に折った。キチンとした数は分からないうえ、130羽以上という、しかした、そんな願いも叶わぬ、禎子さんは亡くなってしまった。まだ折りがけの鶴もあ、た、それを知、た同級生は、原爆で亡くなった子への慰霊のために「原爆の子の像」を建てた。核の被害者のために「原爆の子の像」を建てた。核の被害者のように子を出生させないで欲しい。

## 日本最後の空襲

8月5日未明、米軍のB29が余、た、爆弾を捨てたとき巻き添えを喰ら、た、お、最後、の空襲といわれ、た、た、その地は、どう小田原だ。  
 この空襲で、おほとの家が焼け、48人が死亡した。その数時間後、玉音放送が流れ、太平洋戦争は幕を閉じた。  
 このことを、小田原市民は絶対に知、ておけなければいけない、い、なの、で、将来の市民に伝えていかなければいけないと思、う。

戦争が終わり、70年経、た、当時のことを語れる人は、年々少なくな、て、い、る。彼、ら、い、な、く、な、た、ら、誰、か、に、伝、え、て、い、か、な、け、れ、ば、い、け、な、い、の、か、僕、ら、だ、昔、の、人、々、の、味、わ、た、恐、ろ、や、怒、り、を、伝、え、て、彼、ら、か、ら、で、き、な、か、た、核、廃、絶、見、ら、れ、な、か、た、平、和、を、今、を、生、き、る、僕、ら、が、実、現、し、そ、れ、を、守、り、続、け、る、義、務、は、既、に、課、さ、れ、て、い、る、と、思、う。

# 平和新聞

城北中学校  
中戸川誌珠璃

## ★平和記念公園 。平和記念資料館



レニカ塀

爆心地から240mの広  
島陸軍被服支廠の2  
つの建物の間にあつ  
た壁。もしもこの地盤  
が弱く、塀にひびみ  
かあつたところへ爆  
圧振動で上部がくず  
れ、山形に持ち上がった。  
が原爆の力の強さがよくわかる。

## 。峠三吉詩碑



28歳のとき爆心地か  
ら3km離れた自宅で  
被爆した峠三吉さん  
が書いた詩。  
この詩は40年に発行  
された「原爆詩集」  
の序として書かれた  
もの。

くり返されている「かえせ」とい  
うことは、原爆で家族や平和な日  
常を失った人々の思いが感じられる。  
。原爆死没者追悼平和祈念館  
地下2階の壁には爆心地の島病院  
から見た被爆後の広島町の惨状が  
写っている。これには原爆によつて40年



とけたガラス



## ★本川小学校

### 平和資料館

に七つなつた人の数と  
同じ約4万個の石が使  
われた。その下には被爆した  
市町村が下に行くほど  
爆心地に近くなるよう  
に並んでいる。  
また、遺影コーナー  
には、被爆により亡  
くなった方々の写真と名  
前を見ることが出来る。

原爆の熱線によつ  
てとけたガラス。中  
には水が入っている。  
ガラスがとけて、入  
っていた水をといてこ  
めた。  
その他、原爆の熱  
風は鉄も溶かすほどの  
高温だった。

## ★平和記念式典

。原爆死没者名簿奉納  
今年には59人の名前が  
冊の名簿が奉納された。名簿は  
年の分を合わせて10冊、29万  
の名前が書かれている。

。黙とう  
遺族代表の中川弘美さん、こ  
も代表の東川悠輝さん（段原小  
年一校）をつき、原爆が落とされ  
た8時15分から1分間、黙とうを  
した。

。平和への誓い  
こも代表の桑原悠露さん（白  
島小6年）と細田友花さん（矢野  
南小6年）は、「広島に育つ私  
たちは、事実を被爆者の思いや願  
いを過去、現在、未来へと私  
たちの平和への思いとともに  
いでいく一人となることを誓いま  
す」と述べた。

。編集後記  
この事業に参加して平和記念公  
園での平和のための署名など、島  
の人々がいそいそと活動をしてい  
るのを見て、平和への強い思いを  
感じた。  
「はっ！ピース」という年目のほろ  
く、あなた笑顔という企画で、  
班のみんなが笑顔で写真撮りた  
そう、活動に積極的に参加した  
いと思つた。

# 平和への架橋

私たちが伝えて  
橋中学校  
橋中 菜美

広島に實際行き、当時の残虐を目の当たりにし  
ました。それは現在の平和な日本からは想像もでき  
ない程の状態であり広島に行く前と行。大後下は考  
え方がまるで変わりました。

広島に行く前。テレビや新聞、小学生の時の授  
業や何度も戦争について話を聞いていました。それ  
れ程に留めていませんでした。というより自分に  
は、無縁で関係がないということ、今は平和。それ  
でいいんじゃないかと思。ていたからです。

広島に行。てから。実際には広島へ行。たことで  
自分の今まで考えていた事が情けなくなりました。  
それ位戦争がもたらしたものは大きいと改めて思い  
ました。そんな中で特に印象に残。たものは、国立

追悼平和記念館で読んだ体験記です。その中に私と  
同じ中学二年生で被爆した方の体験記もあり。その  
内容がとても印象に残りました。工場で働いている  
時に爆弾が投下されたもののどろい。か生々残された  
という吉岡宏さんです。ところが姉。父。母というな

くははなりの存在をこの戦争に。て失。てしま  
たのです。一度は恨んだり。憎んだりしたと思。い  
ます。が、吉岡さん。この風にく。ま。ていて  
おせ。か。生々残されたのに意味が。ない。この思いは  
正直。たのです。この思いは周りに。も。元氣を与えた  
と思。う。この決断を。また。ことは素直に尊敬するこ  
とが。できました。おれも自分。た。ら。こう考え

ると何気なく過。ぎに。生。ま。て。い。る。の。か。ま。たいなく、  
恥。ず。か。れ。く。感。じ。ま。し。た。だ。か。ら、簡。単。に。変。わ。れ。る。と  
は。思。え。な。い。け。れ。ど、が。し。で。お。自。分。の。中。で。自。標。に。な。ま

る何かを見つけて毎日を過ごしたいと思。いました。

## 被爆者の折り鶴

2才の時に被爆した佐々  
後は元氣に生活していま  
突然白血病に。て。し  
の折り鶴は。少。れ。でも  
という被爆者の思い  
平和への強い思いが永  
です。昔。い。ま。の。月。の  
被爆者さん。は。さ。く。な。て  
が。被爆者さんの思いを  
の入。が。集。ま。り。原。爆。の。手  
れ。ま。し。た。入。少。女。の。願  
の願。い。に。変。わ。る。一。戦。争。は  
改。め。て。分。か。る。ま。か。け。に。な。ら。な  
このシンボルは被爆者さんで  
を。表。し。て。い。ま。す。



## 編集後記

今回、戦後70周年ということで、広島へ行。ま。し。た  
が、平和への入。の。想。い。は。大。き。く。自。分。も。その。一。員。に。な  
り。たい。と。思。い。ま。し。た。その。一。員。に。な。る。為。に。も。ま。す。は  
身の回りの小さな争。い。ごと。から。無。く。し。て。い。く。こ。と。が。大  
事。だ。と。思。い。ま。す。や。し。て、こ。れ。を。一。人。で。な。く。た。く。さん  
の入。が。想。い。行。動。に。うつ。す。こ。と。で。更。に。一。歩。平。和。へ。の。一。歩  
につ。な。る。の。で。は。な。い。で。し。う。か。  
「平和」は自分一人で作。る。こ。と。は。で。き。な。い。け。れ。ど  
「みんな」で。や。れ。が。ま。と。創。り。上。げ。る。こ。と。が。で。き。る。  
この信。ん。で。生。ま。て。い。き。たい。と。思。い。ま。す。

# 時を越えて

橋中学校 渥美希希

## 七十年前の惨劇と恐怖

一九四五年八月十五日の正午頃、当時の大日本帝国は戦争に降伏することをラジオ放送にて発表。その直前に、私達の住む小田原の町は日本最後の空襲を受け、市内に住んでいたお歳寄りや子供を含む十二名が亡くなり、約四百軒が焼失した。

ヨロップ。戦争が終わる頃、各国が競って原子爆弾の研究を進める中、日本も戦前から研究していたが、実現できず。しかし、日本を早く降伏させた敵国・アメリカは実現に成功し、『マンハッタン計画』を計画した。

この計画は、原爆投下候補地は五つあり、京都、広島、小倉（北九州市）、長崎、新潟であり、たが、京都、

の風情ある街並の景観を崩すのは勿体無いという声よりの排除。当時広島大本営一戦争を指揮する本部）がある

たことなどから、最初に広島が狙われた。原爆投下時に、

今回私達が訪れた広島市の原爆ドームは、造りの建物で、



相生橋という橋があったり、橋の目立つ。その為、工場の原爆を投下。実際に爆発したのは、島病院の上空約六百メートルあたり。強烈な閃光・爆風・熱線が半徑二キロ以内には焼け野原と化した。

## 呉と海軍

呉市は海軍の街として栄えた。当時、世界的に植民地化が進む中、外国に国を占領されたいようい、日本はまず海軍を備えた。明治頃のことである。海軍ができたことにより、レンガ造りの建物、ビル、電車、野球といふ、た今では当たり前となった。そんな海軍だが、よい点ばかりではない。戦争になるとその施設や周りの地域は非常に狙われやすく、空襲も酷い。そのための、広島に原爆が落とされ、一月前の一九四五

## 戦艦「大和」

一九四一年十二月、戦艦「大和」は造られた。当時の最先端の技術が使われていた。全長二百六十三メートルあり、鉄製で複色なため、図面は万枚にも及んだ。造られた面では、大和の存在を知らる者は関係者以外には、進められた。



（編集後記）私達が訪れた広島で様々なお話を聞きました。朝まで気持ちよく寝られ、食事のことも気にせず、戦争を体験した。私達は体験談を少しでも多く聞き、後世に伝えるべきことを考えるので、何か考えるのではないかと。平和で